

経営協議会学外委員からの主な意見への対応状況

経営協議会	学外委員からの主な意見等	対応状況
<p>第 50 回 (平成 27 年 1 月 26 日)</p>	<p>〈大学院改組に係る社会人のリカレント教育等について〉</p> <p>大学院改組においては、社会人のリカレント教育における利便性、柔軟性ということを検討してほしい。グローバル化が進行する中で社会人も多様化しており、様々な学問分野に対する社会人の関心が高まっていることを感じている。また、国際社会で実力を発揮するには、修士取得が必須の環境になっている中で、東京外大の改組には社会全体の期待が大きいと考えるので、しっかりと取り組んでほしい。</p>	<p>従来の 4 専攻を 2 専攻（世界言語社会、国際日本専攻）とする大学院総合国際学研究科博士前期課程の改組（平成 28 年 4 月 1 日設置予定）においては、国際日本専攻の中に日本語教育リカレント・コース（10 月入学）を設けることとしている。当該コースは、海外で働く現職の日本語教育者を対象としており、通常 2 年を要するところ、1 年で修了できるものとする。</p> <p>また、世界言語社会専攻に設けられる予定の Peace and Conflict Studies コース（10 月入学）は、紛争を抱えた世界諸地域の大学とのネットワークを活用した平和構築に寄与する国際的リーダーを養成するコースであり、教育はすべて英語で行われる。その他、アジア・アフリカの諸地域に係る臨地調査（フィールド・ワーク）を理論的・実践的に高度化した研究手法を教授するアジア・アフリカ・フィールドサイエンス・プログラムなど、本学ならではの教育・研究リソースを活用した国際社会で活躍できる人材養成に資するための改組となっている。</p>
<p>第 52 回 (平成 27 年 3 月 27 日)</p>	<p>〈職員の活用について〉</p> <p>大学を活性化していくために、教員だけでなく職員の位置づけを明確にして大学運営に力を発揮できるようにすることが重要だと考える。</p>	<p>本学では、事務職員も教員と目標を共有し、協働して業務を遂行できることが重要であると考えている。平成 27 年 4 月からは学内の体制を見直し、学長直属の総合戦略会議の下に、教員と職員から構成されるオフィスを配置し、大学の取組に職員が参加できる仕組みをつくる予定である。</p> <p>なお、例えば国際化の取組については 3 段階に及ぶ「事務職員国際研修」を実施し、海外研修を含む実地研修等を行う等、これらの仕組みを実質化するため、事務職員の能力開発には従前より積極的に取り組んでいる。</p> <p>また、国際化や就職支援等分野では、教員と職員を繋ぐ専門的知識を持った人材も重要であると考えており、特命事項担当室には「国際マネジメント」「キャリア支援」担当の教員を配置し、これらの任務にあたらせたいと考えている。</p>

<p>第 53 回 (平成 27 年 6 月 24 日)</p>	<p>〈日本人学生と留学生の交流について〉</p> <p>学生寮に多言語・多国籍の学生が入っており、日本人も一緒に入っているということを聞いたが、そういう場があるということは非常に珍しいケースと思われるが、その中で学生の交流を促進することについて、何か考えはお持ちか。</p>	<p>本学では、外国人留学生と日本人学生がともに学べる環境作りを「IJ 共学 (International &amp; Japanese Students)」の理念に基づき取り組んでいる。</p> <p>平成 25 年度に建設した国際交流会館 3 号館は、外国人留学生と日本人学生の混住タイプの学生寮として、互いの異文化理解の促進にも貢献している。会館内の多目的室を学生の企画による歓迎会や親睦会、送別会等の活動に提供しているほか、書道や茶道、華道などの日本文化理解活動も行っている。</p> <p>また、居住者を主体に立ち上げた「たふこみゅレジデンス」(TUFS International Residence Community)は現在、学生団体「たふこみゅ」(TUFS Intercultural Community)として発展しており、大学内の様々な人的・環境的リソースを活用し、国際交流イベントの企画運営を行っている。日本人学生と外国人留学生とが居住施設を共有するだけでなく、活動の企画運営等を通じて協働することによって、互いの異文化理解の促進を図っている。</p>
<p>第 54 回 (平成 27 年 10 月 9 日)</p>	<p>〈学生のキャリア支援について〉</p> <p>学生のキャリア支援というものは、学外からも非常に注目されており、ここの充実度が学生数の増減などにも関係してくると思うので、このあたりについては、優先して改善を図っていただきたい。</p>	<p>学生の就職支援のために設置されたグローバル・キャリア・センターを中心として、積極的なキャリア支援を行っている。</p> <p>具体的な取組としては平成23年度より「外交官プログラム」を実施しており、外務専門職への国内トップクラスの合格実績を誇る(平成26年度実績7名/平成27年度実績6名)。</p> <p>また、学内における企業説明会にも力を入れており、学生が企業担当者と直接に触れあう機会を設けることにより、円滑な就職活動を行えるよう支援を行っている。</p> <p>企業説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内企業研究会 (合同説明会) <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度：50社、学生延べ648名</li> <li>平成27年度：50社、学生延べ749名</li> </ul> </li> <li>・個別企業研究セミナー (個別説明会) <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度：136社、学生延べ5,919名</li> <li>平成27年度：130社、学生延べ3,645名</li> </ul> </li> </ul>